

令和2年度第1回木曾医療圏地域医療構想調整会議（書面開催）における会議事項への意見等

木曾保健福祉事務所

（1）地域医療構想に関する取組について

- 病床数の必要量の減少（推計値）が見込まれるので、病床運営をどうしていくか、病院の検討が課題と考える。
- 2025年に7床不足見込みとなっている「慢性期病床」について、回復期病棟等からの転嫁が必要と思われる。
- 2025年の推計値についての考察が入っていないので書面では良く理解できないが、要因は何なのか、人口減なのか。本年度で木曾病院が癌の放射線治療を終了すると聞いているが、それも要因なのか。書面での会議ではある程度の説明文を入れていただきたい。
- 広い木曾地域、各町村の診療所等の減少、医師高齢化が進む中で、唯一の全郡民が頼る木曾病院であり、病院の弱体化は過疎を進めることにもなる。
- 過去の御嶽山噴火、今回のコロナ禍のようなこともあり、機械的にベッドを減らすのは問題である。かなりの余裕が必要である。
- 木曾病院に大変な支援をしていただいていることに感謝申し上げます。患者のヘリコプター搬送なども多く感謝であるが、木曾病院で処置できるようにして欲しい。
- 脳血管・心血管疾患で市町村別発症患者の予後がどうなっているのか？差がなければ現状維持、差があれば（町村での予後が悪い場合）地域での医療が必要であろう！
- 木曾病院は木曾圏域で唯一の病院として急性期から慢性期、認知症やがんの相談等幅広く、かつ専門性ももって対応していただいている。人口減少に歯止めがかからず、開業医も高齢化、減少している現状であるので、木曾病院の体制が縮小しないようお願いしたい。

（2）医療計画制度の今後について（新興感染症対策）

- 木曾病院が中心となり進めていく事業だと考える。平時からの取り組みが重要と思われる。
- 今回のコロナ禍について、木曾病院では院長を始め職員一丸となって対処していただき感謝している。予防策などを地域へ働き掛け、地域一体での活動が効果を挙げていると思っている。広域連合、TV等を活用して住民に理解を求め、住民も良く応えていると思う。
- 保健所長の兼任は、人材難は承知しているが理解できない。
- 新型コロナをみて、院内感染をどう防ぐか？PPEの扱いは？

（3）医師確保計画の進捗状況について

- 木曾郡内の開業医の高齢化や（木曾町）診療所の医師確保の困難さが現在の木曾地域の課題だと思う。唯一の総合病院である木曾病院に安定的に配置していただき、地域医療をカバーしていただくことを希望する。
- 木曾郡内の医師の高齢化、（玉滝村）診療所の医師確保の困難さが現在の木曾地域の課題となっている。村内の住民は、木曾病院での専門医受診が不可欠であり、総合病院としての役割はとて大きく地域医療の中核である。今後も医師の確保を継続的に行っていただきたい。
- 地域の医院の閉鎖や医師の高齢化が進んでいて、木曾病院への期待は益々増大している。木曾病院への医師の確保・充実は急務である。全国でも最低の位置にあるこの医療圏の医

<p>師を充実させることは急務である。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 病院医師の高齢化と退職などの話しを聞く。十二分な医師数を確保して欲しい。 • 脳神経外科、循環器科については、夜分でも診ていただけるようにして欲しい。県も癌・脳疾患・循環器疾患対策に力を入れているし、町村長も何度か要請・陳情している。 • 2年程木曾病院にいた若い医師は長野へ行くと言うので「早いですね」と言うと「木曾ってこういうとこです」との返事、呆然とした。 • 地域医療人材拠点病院支援事業補助金に係る医師派遣一覧に木曾がないのはなぜ？！ • 木曾地域で開業されている医師の高齢化、後継者不足が懸念されており、医師少数区域の医師確保については、計画目標が達成できるよう特段のご尽力をいただきたい。 • 医師少数区域として、修学資金貸与医師等の配置を増やしていただいていることに感謝申し上げる。計画では、木曾医療圏に関して、令和5年の医師数を、平成30年に比べ、8人増やすよう予定されている。医師の働き方改革等に対応するため、今後医師の需要はある程度高まるものと予想されるが、医師少数区域の医療需要は脆弱であり、配置される医師の専門診療科によっては、地域の医療需要とのミスマッチが生じる可能性が大きく、その結果、病院の経営に大きな影響を及ぼす可能性があるかと懸念される。 <p>現在、修学資金貸与医師と自治医大卒医師とに分けて配置要望を出す形となっているが、要望する側としては区別する必要はなく、重複した場合の経営への影響を考えると、要望形式は一本化していただいた方が実情を反映しやすいと考える。</p> <p>いずれにしても、具体的な配置が決定される前に、事前協議の機会をいただけると、より地域の実情に沿った配置が可能になると思われるので、検討いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> • (1)と同じく、開業医が減少しているので、引き続き確保をお願いしたい。
<p>(4) 外来医療計画の進捗状況について</p>
<ul style="list-style-type: none"> • 医師少数区域の開業医に対する支援について、さらに踏み込んだ各種の支援ができるよう、積極的にご検討いただきたい。
<p>(5) 第8期介護保険事業支援計画の策定に係る、医療介護連携の方針等について</p>
<ul style="list-style-type: none"> • 介護保険施設等の継続のために医師の協力が必須となっている。木曾医師会員の減少や高齢化が顕著であり、各施設の問題でなく、地域全体の課題として検討していけると良い。 • 医療資源に乏しい木曾圏域の医療と介護の連携は極めて厳しい状況にあると考えます。絵に描いた餅にならないように、地域の実情に沿った工夫をしながら実効性のある取り組みをしていく必要があります。 • 在宅（自宅、老人ホーム）での看取りは、医療機関・訪問看護のスタッフの方々に担っていただいているが、個々の機関での対応では限界があるので、今後は広域的な検討が必要になってくるのではないかと思います。
<p>(6) 令和3年度及び令和2年度追加募集分の地域医療介護総合確保基金（医療分野）の要望状況等について</p>
<ul style="list-style-type: none"> • 木曾病院へ配慮していただき感謝申し上げます。二次・三次医療圏の態勢強化と木曾病院で力を入れている癌対策に配慮していただきありがたい。一層の配慮をお願いしたい。